

■2020 年度B 日程卒業見込特別入試・一般入試

「小論文」問題の出題趣旨・解説

【出題趣旨】

〔問〕は、問題文を読解し、それを踏まえた上で、尊厳死や延命措置の中止に関する法制化に伴う問題について考察し、根拠を示して論理的・説得的に自分の見解を論述する能力を問うものである。受験者には法曹を目指すために必要な読解力、考察力、そして論理的な文章表現力を求めている。

【解説】

1 解答にあたっての注意事項と解答方法について

解答にあたっては、問題表紙に、①解答の訂正方法(斜線又は横線での消去と次のマス目からの書き直し)、及び、②記入方法(記入欄・横書き)が指示されており、当然それに従った解答が求められる。

この指示に従っていない場合、例えば、訂正した同じマス目の中や余白に訂正後の解答を書いたり、解答欄外に訂正後の解答を書いたりするなど、指示に従わずに解答を訂正している場合は、その部分は記入がないものとして採点を行った。

また、誤字・脱字は言うまでもなく日本語能力の問題であり、採点基準に含めている。

2 〔問〕について

著者は、現在、終末期医療のあり方について「延命至上主義」に変化が生じていることを指摘し、治療の中止という選択肢を考えるにあたって、医療側からの新しいガイドラインの提起およびその策定の困難さ、患者側から見た意思の尊重の保障や異なる「延命」のあり方等を挙げている。そこで示された終末期医療が抱える問題状況を踏まえた上で、尊厳死や延命措置の中止に関する法制化を行う場合に想定される問題点を提示して検討し、それに対する自らの見解を明確に論じることが求められる。

以 上